

自然情報継続調査について

調査体制

動植物に関する 8 部会で構成される専門調査部会（以下、調査部会）を立ち上げ、調査を行いました。

動植物に関する調査部会

分類群	部会長	所属
植物	近藤慎一	岐阜県植物研究会 会員
哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会 会員
鳥類	大塚之稔	日本野鳥の会 岐阜 顧問
	福井強志	日本野鳥の会 岐阜 監事
爬虫類	楠田哲士	岐阜大学応用生物科学部 教授
両生類	高木雅紀	岐阜県立大垣北高等学校 教諭
魚類・甲殻類	向井貴彦	岐阜大学地域科学部 教授
昆虫類	中島和典	岐阜県昆虫分布研究会
貝類	川瀬基弘	愛知みずほ大学人間科学部 准教授
	横井敦史	名古屋市立大学大学院

調査結果

各調査部会の調査結果は次のとおりでした。

令和 6 年度 調査部会の調査結果

分類群	確認種数	新規確認種数	岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種	岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種
植物	397	4	17	55
哺乳類	16		3	5
鳥類	73	1	18	2
爬虫類	5		3	1
両生類	11		6	1
魚類	46		11	7
昆虫類	125	4	3	4
貝類	31	1	9	5
甲殻類	7		1	1
合計	711	10	71	81

新規確認種

令和 6 年度調査において、岐阜市内で新規に確認された動植物は 10 種でした。

令和 6 年度調査 新規確認種

分類群	科名	和名	備考
植物	ユリ科	シンテッポウユリ	タカサゴユリ（台湾原産外来種）とテッポウユリ（国内外来種）の雑種
	ラン科	ハルザキヤツシロラン	環境省 RL2020：絶滅危惧Ⅱ類
	ヒルガオ科	アメリカアサガオ	外来種（熱帯アメリカ原産）
	シソ科	マルバハッカ	外来種（南～西ヨーロッパ原産）
鳥類	タカ科	オオワシ	国内希少野生動植物種 環境省 RL2020：絶滅危惧Ⅱ類
昆虫類	ナガズヤセバエ科	モンキアシナガヤセバエ	
	タテハチョウ科	アカボシゴマダラ	特定外来生物
	ハバチ科	ヒラアシハバチ	
	クモバチ科	ツマキトゲナシクモバチ	外来種
貝類	アズキガイ科	アズキガイ	岐阜県 RL2001：情報不足

考察（生物多様性に迫る 4 つの危機）

各分類群について、調査結果から生物多様性に迫る 4 つの危機に関して考察しました。

生物多様性に迫る 4 つの危機

危機	内容
第 1 の危機	開発など人間活動による危機
第 2 の危機	自然に対する手入れ不足による危機
第 3 の危機	人により持ち込まれたものによる危機
第 4 の危機	地球環境の変化による危機

植物

- ・達目洞、大洞周辺を中心に調査を実施し、岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を 17 種、岐阜市版ブルーデータブック 2023 掲載種を 55 種確認しました。
- ・岐阜市内でも開発などの人間活動により自然性の高い常緑広葉樹林は少なくなった【第 1 の危機】ものの、金華山周辺では現在も残されており、サイハイラン（絶滅危惧Ⅰ類）、ギンリョウソウモドキ（絶滅危惧Ⅱ類）、ウスキムヨウラン（情報不足）のような希少な植物が生育しています。
- ・近年、草刈りなど自然に対する手入れ不足が要因で里山に生育する植物が減少しています【第 2 の危機】が、達目洞、大洞周辺では、住民の方たちの保全活動によって、昔ながらの里山の自然を今に残しています。本年度の調査でも、流水中にヒメコウホネ（絶滅危惧Ⅰ類）、湿生地にヘラオモダカ（絶滅危惧Ⅰ類）、カキツバタ（絶滅危惧Ⅱ類）など、樹林下や林縁ではヒトリシズカ（絶滅危惧Ⅱ類）、キツネノカミソリ（絶滅危惧Ⅱ類）などの希少な植物の生育を確認しました。

哺乳類

- ・達目洞、古津、石谷などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を 3 種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を 5 種確認しました。
- ・石谷では設置した巣箱（1 個）でムササビ（準絶滅危惧）の繁殖を確認しました。また市内河川敷ではニホンジネズミ（準絶滅危惧）を確認しました。
- ・岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023 までの調査から引き続き特定外来生物のヌートリア、クリハラリス、アライグマを確認しました。特にアライグマは岐阜市内に広く定着し、ニホンイシガメの前肢欠損個体の事例なども報告されていることから、在来生物の食害など生態系への影響が懸念されます。【第 3 の危機】

鳥類

- ・岐阜市木田の河川に囲まれた田畑・雑木林、水田地帯などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を 18 種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を 2 種確認しました。
- ・金華山では、6 年ぶりにハヤブサ（絶滅危惧Ⅱ類）が繁殖し、6 月には若鳥 3 羽の飛翔がみられました。

- ・アオバズク（準絶滅危惧）が繁殖した岩野田小学校は、市内では数カ所しかない繁殖地の一つとして貴重です。
- ・ながら川ふれあいの森(古津谷)では、サンコウチョウ（準絶滅危惧）、サンショウクイ（準絶滅危惧）、オオルリ（準絶滅危惧）のほか、ヤイロチョウ（環境省レッドリスト 2020 絶滅危惧ⅠB類）の繁殖を確認しました。良好な樹林環境が維持されているものと考えられます。
- ・放棄水田などの増加によって、雑草低木の繁茂、水田の湿地としての役割の低下などによって水辺環境を好む小型サギ類などの種で減少傾向がみられました。【第2の危機】

爬虫類

- ・2009-2013 年の捕獲調査でニホンイシガメ（絶滅危惧Ⅱ類）が捕獲された地点を中心とした岐阜市北西部の14地点を対象に、捕獲調査を実施し、レッドデータブック 2023 掲載種を3種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を1種確認しました。
- ・ニホンイシガメを捕獲できたのは6地点だけで、多くの地点でアカミミガメとクサガメが捕獲されました。【第3の危機】

両生類

- ・雛倉などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を6種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を1種確認しました。
- ・岐阜大学の向井教授と岐阜大学、岐阜高校、岐阜北高校による保護活動が行われている梅林公園では、アズマヒキガエル（絶滅危惧Ⅰ類）の繁殖を確認しました。
- ・ニホンアカガエル（絶滅危惧Ⅰ類）やヤマアカガエル（絶滅危惧Ⅰ類）、ナゴヤダルマガエル（絶滅危惧Ⅱ類）も数カ所で確認されました。しかし、水田の乾田化が進み、生息地が減少傾向にあります。【第2の危機】
- ・アメリカザリガニが増加しており、ヤマアカガエルの卵への影響（食害）が大きいと考えられます。また、池に生息しているコイの食害による影響も懸念材料となります。【第3の危機】
- ・地球温暖化による影響は、多くの両生類にとっては水中の胚発生の時期から幼生期の水温上昇、変態・上陸後の陸上生活期の気温の上昇は、影響が大きいと考えられます。それに加えて、年間の総雨量はさほど変化していないものの、ゲリラ豪雨など一度に降る雨量が増加している（言い換えれば、雨の降らない時期が長引く時がある）傾向にあるほか、繁殖期に降雨が非常に少ない年もあるため、産卵ができない、産卵が遅れて過熟な卵が発生しないなど、充分に子孫を残すことができない年がみられます。【第4の危機】

魚類・甲殻類

- ・長良川などを中心に調査を実施し、魚類では岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を11種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を8種、甲殻類では岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を1種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を1種確認しました。

■魚類

- ・ 昨年から引き続きヤリヤナゴ（絶滅危惧Ⅱ類）、アブラボテ（準絶滅危惧）などを確認しました。
- ・ 長良川ではボウズハゼ（情報不足）の増加傾向がみられました。年変動なのか地球温暖化による影響なのかは不明であるため、今後の動向が注目されます。
- ・ 昨年度調査から引き続き特定外来生物のコクチバスを確認しました。コクチバスは動物食性が強く、魚類、甲殻類、水生昆虫などを捕食するほか、流水域への適応性が高いことから、在来生態系への影響が懸念されます。【第3の危機】

■甲殻類

- ・ 長良川では両側回遊性の甲殻類であるモクズガニ（準絶滅危惧）を確認しました。
- ・ 昨年度調査から引き続きチュウゴクスジエビが確認されました。生息環境が類似するスジエビやヌカエビなどの在来コエビ類への影響が懸念されます。【第3の危機】
- ・ 岐阜市内で断片的に記録があるヨコエビ類について標本を精査したところ、生態系被害防止外来種リストに選定されているフロリダマミズヨコエビであり、伊自良川での調査の際も確認されました。【第3の危機】

昆虫類

- ・ 大洞、達目洞、長良古津などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を 3 種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を 4 種確認しました。
- ・ 大洞では、ミドリシジミやヒメタイコウチなどを確認しました。近年、水田の耕作放棄などによって生息環境が喪失・悪化している場所もみられます【第2の危機】が、大洞では住民の方たちの保全活動により、これらの水辺や湿地の昆虫が生息できるようでした。
- ・ 市内北部ではギフチョウ（環境省レッドリスト 2020 絶滅危惧Ⅱ類）を確認しました。ここでは、里山的な環境が維持されているものと考えられます。
- ・ 長良川ふれあいの森では岐阜市では初記録となる特定外来生物であるアカボシゴマダラを確認しました。外来種はもともと生息していた昆虫類と餌を巡り、追いやる可能性もあるため、今後の動向が注目されます。【第3の危機】
- ・ 国内では元来沖縄以南に分布し、近年本州以北で記録がされている南方系のアカギカメムシを複数個体確認しました。気候変動の兆しと捉える考えもあり、今後も新たな南方系種の侵入・定着に注視していく必要があります。【第4の危機】

貝類

- ・ 雛倉などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドデータブック 2023 掲載種を 9 種、岐阜市ブルーデータブック 2023 掲載種を 5 種確認しました。
- ・ ヤマタカマイマイ（絶滅危惧Ⅰ類）やキュウシュウゴマガイ（準絶滅危惧）が継続的に生息している状況を確認しました。
- ・ ニホンケンガイ（準絶滅危惧）を対象とした調査を実施したところ、以前は多数確認されていた地点で減少傾向がみられ、一方で外来種のトクサオカチョウジガイの増加傾向がみられました。

年変動なのか外来種による影響なのかは不明であるため、今後の動向が注目されます。

- ・岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023 までの調査から引き続きスクミリンゴガイ、タイワンシジミなどの外来種が確認されています。また、岐阜市では初記録となるアズキガイも確認されました。
- ・特にスクミリンゴガイは生息環境を同じくする他の在来淡水貝類への影響のほか、水稻への食害など農作物への被害も懸念されます。【第3の危機】